

平成 30 年 11 月吉日

お得意様各位

清松ガス住設株式会社

代表取締役 清松 孝

原料費調整額に関する算定方法と通知時期変更のお知らせ

拝啓 初秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。弊社、清松ガス住設株式会社は以前よりお客様にガス料金の透明化を図るため、また輸入価格や為替の変動に迅速に対応するため原料費調整を導入しておりますが、近年アメリカ産の安価なガスの輸入や、パナマ運河の通峡料の見直しなど、現在の算定方法に盛り込まれていない要因が輸入価格に大きく影響してきており、大手卸 4 社も既にアメリカ産の LP ガス価格を算定に採用しております。

また、調整額変動額の通知がシステム上当月検針伝票であったため、1 ヶ月前の検針伝票での通知に変更し、より一層の料金透明化と輸入価格変動への迅速な対応に努めていきたいと思っております。

つきましては算定方法と調整額変動額の通知時期を以下のように変更いたします。

今後とも LP ガスの安定供給とお客様の生活の質向上に努めていきますので、皆様のご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。 敬具

変更前：

9 月・10 月合成 CP ×10 月 TTS・・・①10 月の基準値

10 月・11 月合成 CP ×11 月 TTS・・・②11 月の基準値

(②11 月の基準値－①10 月の基準値) ÷ 1000 ÷ 0.482(プロパンの産気率) = 調整額変動額

通知と反映の時期：

8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
	10 月基準値		⇒ 反映			
		11 月基準値		⇒ 反映		
			12 月基準値		⇒ 反映	

変更後：

9 月・10 月合成 CP ×9 月 TTS +10 月中東フレート・・・中東品コスト(CPF)

(9 月 MB+米国物流経費(パナマ通峡料等)×9 月 TTS+10 月北米フレート・・・米国品コスト(MBF)

中東品コスト 75% +米国品コスト 25% +石油石炭税 1,860 円/ト・・・①10 月の基準値

10 月・11 月合成 CP ×10 月 TTS +11 月中東フレート・・・中東品コスト(CPF)

(10 月 MB+米国物流経費(パナマ通峡料等)×10 月 TTS+11 月北米フレート・・・米国品コスト(MBF)

中東品コスト 75% +米国品コスト 25% +石油石炭税 1,860 円/ト・・・②11 月の基準値

(②11 月の基準値－①10 月の基準値) ÷ 1000 ÷ 0.482(プロパンの産気率) = 調整額変動額

通知と反映の時期：

8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
	10 月基準値	⇒ 通知	⇒ 反映			
		11 月基準値	⇒ 通知	⇒ 反映		
			12 月基準値	⇒ 通知	⇒ 反映	

※ CP、MB、TTS、フレートに関しては裏面の説明をご参照ください。

## 原料費調整制度とは

LP ガスは大半が輸入品であり、輸出国の世情や世界の需給バランス・為替相場等により価格が変動します。そこで、変動する原料費を料金単価に反映させるというのが原料費調整制度です。LP ガス大手元売り 4 社は既に MB 市況を算定方法に取り入れています。

**CP**：コントラクトプライス

サウジアラムコ社が輸入国の取引先と交わす契約価格です。この価格が世界の LP ガスの輸入価格のベースになります。急激な値動きを緩和するため2か月平均(合成CP)を採用します。

**MB**：モントベルビュー

モントベルビュー市況は米テキサス州で取引されている LPG の価格で、国際市場においても米国産 LPG の指標価格として扱われています。毎日更新されるため月平均を採用します。

**TTS**：対顧客電信相場

日本円を売ってドルを買う場合の為替レート

フレート：輸入タンカーの運送料等

### ● 調整方法

(計算例)

9月のCPが600\$/トン、MBが551.63\$/トン、米国物流経費87\$/トン、為替レートが112.91¥/ドル

10月のCPが655\$/トン、MBが498.43\$/トン、中東フレート5800¥/トン、北米フレート8700¥/トン、米国物流経費87\$/トン、為替レートが113.82¥/ドル

11月のCPが540\$/トン、中東フレート6100¥/トン、北米フレート9150¥/トン、  
の場合の計算方法は下記のとおりです。

$$\begin{aligned} & (600 \$ / \text{トン} + 655 \$ / \text{トン}) \div 2 \times 112.91 \text{ ¥} / \text{ドル} + 5800 \text{ ¥} / \text{トン} = 76651.03 \text{ ¥} / \text{トン} \cdots \text{中東品コスト(CPF)} \\ & (551.63 \$ / \text{トン} + 87 \$ / \text{トン}) \times 112.91 \text{ ¥} / \text{ドル} + 8700 \text{ ¥} / \text{トン} = 80807.71 \text{ ¥} / \text{トン} \cdots \text{米国品コスト(MBF)} \\ & 76651.03 \text{ ¥} / \text{トン} \times 75\% + \text{ ¥}80807.71 \text{ ¥} / \text{トン} \times 25\% + 1860 \text{ ¥} / \text{トン} = 79550.20 \text{ ¥} / \text{トン} \cdots \text{①10月基準値} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & (655 \$ / \text{トン} + 540 \$ / \text{トン}) \div 2 \times 113.82 \text{ ¥} / \text{ドル} + 6100 \text{ ¥} / \text{トン} = 74107.45 \text{ ¥} / \text{トン} \cdots \text{中東品コスト(CPF)} \\ & (498.43 \$ / \text{トン} + 87 \$ / \text{トン}) \times 113.82 \text{ ¥} / \text{ドル} + 9150 \text{ ¥} / \text{トン} = 75783.64 \text{ ¥} / \text{トン} \cdots \text{米国品コスト(MBF)} \\ & 74107.45 \text{ ¥} / \text{トン} \times 75\% + \text{ ¥}75783.64 \text{ ¥} / \text{トン} \times 25\% + 1860 \text{ ¥} / \text{トン} = 76386.50 \text{ ¥} / \text{トン} \cdots \text{②11月基準値} \end{aligned}$$

<原料費調整変動額>

$$\begin{aligned} & (\text{②11月基準値} - \text{①10月基準値}) \div 1000 \div 0.482 (\text{プロパンの産気率}) \\ & 76386.50 \text{ ¥} / \text{トン} - 79550.20 \text{ ¥} / \text{トン} \div 1000 \div 0.482 = -6.56 \text{ ¥} / \text{m}^3 \end{aligned}$$

よって12月のガス料金(11月検針後～12月検針)は11月のガス料金(10月検針後～11月検針)より1 m<sup>3</sup>当たり6.56円値下げとなります。